

東京農業大学総合研究所

生物的防除部会 2026 年度 第 1 回講演会

※会場および Zoom ミーティングによるハイブリッド形式

日時： 2026 年 6 月 23 日(火)13:20~16:30

会場： 東京農業大学世田谷キャンパス 1 号館 3 階 321 教室

参加費： 無料

13:20 「アグロエコロジーについて」

宮浦理恵 氏（東京農業大学）

アグロエコロジー(agroecology)とは、農業を生態系の観点から再考し、生態学の原理を活用して持続可能なフードシステムを実現しようとする総合農学の分野である。ヨーロッパでは EU Green Deal や Farm to Fork 戦略の中で重要概念として導入され、科学・実践・社会運動を統合する枠組みとして急速に展開している。本講演では、多様な作付け体系、非作物植生の機能、農薬の削減に関する EU の研究動向を紹介するとともに、研究と現場、政策を繋ぐ挑戦的取組を概説する。さらに、モンスーンアジアにおける研究展開の可能性と方法論について議論したい。

14:20 休憩

14:30 「ブドウ根頭がんしゅ病の生物的防除法の開発」

川口 章 氏（農研機構 西日本農業研究センター）

ブドウ根頭がんしゅ病は、植物病原細菌 *Allorhizobium* (= *Rhizobium*, *Agrobacterium*) *vitis* によって植物の根や茎などにかんしゅ(癌腫)と呼ばれるこぶを形成する土壌病害で、本病は樹の生育不良や枯死の原因となる。演者は非病原性 *A. vitis* の中に根頭がんしゅ病の発病を抑制する能力を持つ特定の菌株群を発見し、実用化に向けた基礎・応用研究を進め、本病の生物的防除法を開発した。本講演会では、本研究の基礎から実用化までの全体像を講演する。

15:30 「ケミカルシグナルを介した植物-植食者-天敵の相互作用~かじられた植物からのメッセージ~」

野下浩二 氏（秋田県立大学）

植物は昆虫や病原菌から身を守るために様々なケミカルを作り出す。植物を食べる昆虫(植食者)に対する植物の防御応答のひとつに、植食者の食害を引き金として生産・放出される揮発性物質(Herbivore-Induced Plant Volatiles; HIPVs)が知られる。HIPVs は植食者に直接影響を与えるだけでなく、植食者の天敵が餌あるいは宿主となる植食者を探索するためのシグナルとしても機能する。本講演では、演者らの捕食性カメムシの研究など織り交ぜ、HIPVs を介した三者の関係について紹介する。

17:00 懇親会

講演会終了後、演者の皆さんを囲んで懇親会を行います(参加費 3,000 円)。

参加を希望される方は講演会参加申込の際、懇親会への参加有無をお知らせ下さい。

< 講演会参加 申し込み要領 >

以下のリンクまたは QR コードよりフォームにアクセスし、お名前とメールアドレス、会場またはオンラインによる参加の希望、懇親会への参加の有無をご入力の上送信してください。オンライン参加を希望される方には、開催日前日までに Zoom ミーティングの接続情報をメールでお知らせ致します。

<https://forms.gle/kuQTY7YnMrQ3QTKq6>

